

森山通信

元気モリモリ森山かずひろは、
元気な千葉市をつくります！



森山かずひろ 検索

令和2年・第3回定例会が開催されました。

9月8日から
10月7日まで

今議会で森山かずひろは、会派を代表して質疑を行いました。(9月17日) 質疑の項目で市政運営の基本姿勢についての中で取り上げました「まちづくりについて」を報告します。

都市デザインについて

明年の令和3年に市制100周年を迎えることを踏まえ、本市のまちづくり、「都市」としての歩みを振り返りました。人口減少の成熟社会を迎えた今日、これからの魅力ある都心づくり、まちづくりには、質の高い都市機能として、文化芸術、交流、知の集積などでイノベーションがおこる都心であること。また、公共空間の活用においても、道路上空の利用、広場や歩行空間の充実、まちの新しい景観の創出と保存などが求められているのではないかと考えています。

このような中、都市計画審議会で「都市計画の総合的な見直しの検討着手」についての報告があり、令和5年度を開始年度とする次期基本計画の策定を踏まえ、都市デザインアドバイザー制度により、都市行政の基礎となる都市計画、公園緑地、住宅の各分野別マスタープランを対象に、新たに「都市デザイン」の考え方を取り入れた見直しの検討に着手するとの報告を受けました。



千葉公園

大賀ハス



浅間神社



千葉市民ギャラリー・いなげ



加曽利貝塚



旧生浜町役場庁舎



千葉城

Q 都市計画の総合的な見直しに「都市デザイン」の考え方を取り入れた「都市デザインアドバイザー制度」の狙いと今後の展開について、本市としてどのように取り組むのか？

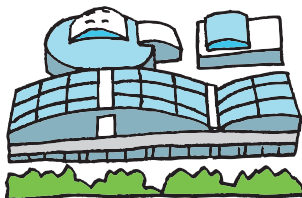
A 本年4月に創設した「都市デザインアドバイザー制度」は、都市デザインに関する専門的知識を有する学識経験者から助言を得ながら、本市自らが千葉市らしさの確立に向け、都市デザインの取り組みを進めていく制度です。

具体的には、「都市の生い立ちや地域の資源等を読み解き、市民のライフスタイル等から見た目指すべき都市の姿を企画立案すること」及び「その実現を図るため、まちに大きな効果や影響がある公共及び民間事業を対象に、設計段階からデザイン調整を行うこと」を二つの柱として取り組むこととしております。

この取り組みにより、良好な景観や質の高い空間を形成し、長期的には、本市ならではの価値観、生活スタイル、都市文化を確立するとともに、市民がまちに誇りや愛着を持ち、自らがより良いまちを目指す活動に参加しているという自負心である「シビックプライド」の醸成を目指しております。



ヨットハーバー



幕張メッセ

現在、職員自らのシビックプライドの醸成も意識しつつ、庁内の中堅若手職員を中心に、目指すべき都市の姿を具体的な形にしていくコンセプトワークに着手しており、今後、適宜、このコンセプトワークなどの検討過程を情報発信していくとともに、市民の皆様の御意見などを伺いながら、多くの方々が共感できる「目指すべき都市の姿」を明らかにしたマスタープランの再構築と、デザイン調整の仕組みについて検討を進めてまいります。

ウォカブル 推進



「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を実現する

国土交通省において「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生と題して、都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会が持たれ、都市経済・社会を巡る背景、コンパクト＋ネットワークを進展させる都市再生政策の動向、さらには複数の海外・国内事例を調査され、今後のまちづくりの方向性について、提言がなされました。

Q 国土交通省が示すウォカブル推進により、これまでの都市再生の考え方を進化させることについてどのように考えるのか、また、具体的な今後の取り組みについては？

A ウォカブル推進は、生産年齢人口の減少や、働き手・働き方の多様化、世代間交流や人々のつながりの低下など様々な都市経済・社会を巡る潮流を背景に、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取り組みを更に進化させるため、官民のパブリック空間をひと中心の空間へ転換し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指しているものです。

本市においても、生産年齢人口の減少はもとより、女性・高齢者の就労率や高齢単身世帯の増加、町内自治会への加入の低下など都市経済・社会を巡る潮流は変化してきており、これらに対応するため、立地適正化計画の取り組みに加え、まちなかの魅力向上により都市再生を進化させていく必要があります。

そのため、ウォカブル推進は、千葉都心や幕張新都心など都心部の魅力をさらに高め、界索性*を持たせ、来街者の回遊を高めることで、新たな価値の創造につながるものと考えております。

特に、ウィズコロナ・アフターコロナのまちづくりにおいて、価値が見直されているオープンスペースを創造する上でも、意義が高まっていると捉えており、本市が持続的に発展し続けるためにも重要な取り組みであると考えております。

具体的な取り組みとして「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」のまちづくりの方向性の実現に向け、西エリアにおける賑わいの創出や回遊性の充実を目指し、駅前広場や歩行者デッキなどの公共空間と、隣接する民間空地を一体的かつ日常的に多様な用途、使い方として開放する「千葉都心ウォカブル推進社会実験」に着手したところであります。今後、官民一体となりウォカブル推進に取り組んでまいります。

※界索性：まちなかで地域住民や来街者など多様な人々が出会い、つながりを持ち、コミュニティを形成すること



JR千葉駅西口・駅前広場



千葉みなと棧橋・港湾緑地



葭川プロムナード



通町公園・芝生広場

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

森山かずひろ

Tel.043-245-5483 Fax.043-245-5584

<https://moriyama-kazuhiro.com/>